

### 第3学年音楽科学習指導案

指導者（音楽領域専攻）〇〇〇〇

（指導担当教員 〇〇〇〇）

1. 日時 平成19年11月14日（月曜）第3校時(10:30～11:10)
2. 学年・組 第3年B組 計40名
3. 場所 音楽室
4. 題材名 日本の歌（組歌「四季」から「花」）

#### 5. 題材の目標

（音楽への関心・意欲・態度）

- ・日本歌曲に対して興味・関心を持ち、自ら表現しようとする。

（音楽表現の創意工夫）

- ・日本語の持つ美しさを味わいながら表現の工夫をすることができる。

（音楽表現の技能）

- ・正しい発声、正確な音程、リズムで楽譜に忠実に演奏する。

（鑑賞の能力）

- ・日本歌曲の特徴を味わい、日本の作曲家についての知識・理解を深める。

#### 6. 題材について

##### ①題材観

学校での音楽教育は長年に渡って、大きく西洋音楽にかたよってきたが、他国の文化や音楽を学ぶ前に日本の文化や伝統を学び、邦楽に触れることによって、自国の音楽を尊重することの必要性が見直されている。唱歌と言われる学校教育の中で歌われる歌は「蛍の光」などのように、外国曲のメロディに日本語の詩をあてはめて、それを歌うことによって始まった。しかし、語感の不自然さが指摘され「早く日本で作られた唱歌を」の声に促されて明治30年代の頃、日本の歌曲が誕生した。それから今日まで100余年に渡って多くの日本の歌が書かれ、音楽の授業の中で歌い継がれてきた。それらの日本歌曲の中から本題材「日本の歌」においては1年時で「夏の思い出」「赤とんぼ」「さくらさくら」2年時では「浜辺の歌」「荒城の月」「ふるさと」が扱われている。

本題材「日本の歌」は日本歌曲の表現活動を通して、明治時代を代表する歌の典雅な美しさ、大正時代の歌曲の端正な美しさなど、日本語の持つ美しさや叙情性を味わうことのできる題材である。そして、特に中心的に扱われる「花」は日本最初の本格的な作曲家「滝廉太郎」の作品であり、1900年8月に「花」「納涼」「月」「雪」の4曲が組曲「四季」として作曲された。暖かく晴れやかな情感の立ちのぼる「花」は明治時代を代表する歌曲で、春爛漫の隅田川べりを詠った優雅な美しさを味わうことのできる曲である。

本来、この曲は女声二部合唱で歌われている曲であるが、男声二部、混声二部、重唱など、様々な演奏形態で歌うことのできる曲であり、流れるような美しい主旋律と、副旋律との二部合唱により美しいハーモニーを作り上げることができる。また、この曲は小学校5学年の共通教材の中の滝廉太郎の歌曲「花」「荒城の月」「箱根八里」のうちの1曲に含まれているので、中学校では半知教材として扱われている。主旋律が分かりやすく、副旋律との2声の響きあいの美しさを味わえるとともに、作曲者についての理解を含めて、歌詞の情景を思い描きながら3年生にふさわしい感情表現のできる曲である。

## ②生徒観

3年生になって男子の変声も落ち着き、女子も音域が広がって、自分たちの豊かな声と安定した響きに自信を持って堂々と歌うことができるようになってきた。毎時間の発声練習や校歌斉唱もクラス全員で声を合わせて歌おうとする姿勢が見られる。

男子生徒の技能面を見てみると、テノールの男子は高い音域になると音が上がりきれずに音程が不安定になったり、無理をして高い声を出そうとしたりするので、張り上げたような歌い方になっている。またバスの男子は強弱記号を意識せずに、Pのところも強く歌ってしまったり、微妙な副旋律の動きが主旋律につられて、正確な音程が取れていなかったりするなどの問題点が見られる。

一方、女子生徒は男子生徒に比べると、演奏記号に留意して、ていねいに気持ちを込めて歌おうとしているが、ソプラノは腹筋の支えが弱いため、高い音域になるとぬけるような透明感のある声を出すことができない。アルトはソプラノに比べると厚みのある声が出るようになったが、低い音域になると地声になってしまうなど、まだまだ積み残された課題がある。

全体としては、豊かな声量で歌うことを心がけながら、きれいな響きを作ろうと努力している生徒が多く、気持ちを合わせて意欲的に取り組むことのできるクラスである。

クラスの大きな傾向として次のような生徒がみられる。

- A. 自信を持って伸び伸びと歌うことができる。豊かな表現を工夫しようとする姿勢が見られる。
- B. 自分の声にやや自信がない。前向きな姿勢で取り組んでいるが、表現の工夫や広がりがない。
- C. 集中力が持続しない。練習が長時間続くと意欲がなくなり周囲に合わせて適当に歌っている。

例えば、一番割合が少ない[A]の傾向を示している生徒にはMとNがいる。二人とも声量があり、意欲的に取り組んでいるが、自分の声に自信を持ちすぎていて、自分が歌うことに必死で周囲の声を聴いて歌うということができないという問題点も持ち合わせている。

## ③指導観

第一次では本教材「花」の導入として模範演奏のCDを鑑賞して曲の雰囲気をつかませる。次に主旋律と副旋律の音程を確認しながら2小節ずつ範唱を行わせる。音取りができたなら子音や鼻濁音に注意しながら全員で演奏記号に留意して主旋律、副旋律を斉唱させる。特に跳躍音程の部分や最後の4小節の音程とテンポを正確に習得できるまで繰り返して練習させる。第二次では歌詞の解釈とパートを決めて2部合唱に取り組ませる。第三次(本時)では4パートで声部の分担をして組み合わせを交代しながら評価活動を行わせる。第四次では作曲者の生涯について学習するとともに「四季」に含まれている他の3曲についても歌詞の解釈をしてから鑑賞させる。第五次では二人一組でペアを作らせて、二重唱での歌唱テストを行う。

なお、前述したMとNのような意欲的な生徒への具体的な指導においては、二声のハーモニーを作る時に一番大切なことは耳を使って他のパートの声を聴くことであり、自分の声を前面に押し出すだけではいけないということに気づかせたい。特にNは変声期が終わったところで、高い音域になると無理やり大きな声を出そうとして、のどをしめて歌っていることがあるので、のどを開いた自然な発声を習得して、やわらかなテノールで歌えるように技能面での変容を期待したい。

## 7. 指導計画（全5時間）

第一次 主旋律，副旋律の範唱，斉唱。・・・1時間

第二次 パートを分けて二部合唱。歌詞の解釈。・・・1時間

第三次 二部合唱のハーモニーを聴き合って他パートの評価活動。・・・1時間（本時 1 / 1）

第四次 「四季」から「納涼」「月」「雪」の歌詞の解釈と鑑賞。作曲者についての理解。・・・1時間

第五次 二人でペアを作って二重唱の歌唱テスト。・・・1時間

## 8. 本時の学習

### ①本時の目標

- ・主旋律，副旋律の二声の響きを聴き合って歌う。
- ・演奏記号に留意して，歌詞の情景が伝わるように感情を込めて歌う。
- ・他のパートを注意深く聴いて，適切な批評とアドバイスを行う。

### ②本時について

本時の指導の流れとしては導入において腹式呼吸と発声練習，校歌斉唱を行わせる。腹式呼吸の練習では息を30秒間続ける練習と，腹筋を使って呼吸する練習を行わせる。発声練習では正しい姿勢と腹式呼吸を意識した発声，共鳴腔を開いて響きのある声作りを目指す。次に4声の響き合う音を聴き合って，正確な音程を保っているかという点に注意しながらハーモニーを作る練習を行わせる。座席はパート別ではなく名簿順に座っているので，自分の周囲に同じパートの人がいないと声を出しにくいと思われるが違うパートに囲まれていたとしても，周囲の声を聴きながら自分の音を正確に保って歌える力をつけていくこと意識させる。導入の最後に，明瞭な発音で子音を立てて母音を響かせることを意識して校歌を斉唱させる。

展開1では4パートの目指す声とはどのような声なのか，という点を発問して答えさせる。それぞれ自分のパートが目指す声を確認することによって，それぞれのパートの持つ役割を認識し，表現の工夫につなげてさせいく。次に曲の頂点の確認と最後の3小節のテンポの変化，演奏上の記号に留意して，前時で習得した主旋律，副旋律を全員で一回ずつ斉唱させる。その際に跳躍音程や強弱などに気をつけさせ，できていない部分については繰り返して練習させる。

展開2ではソプラノ，アルト，テノール，バスの4つのパートに分かれて，女声二部，男声二部，混声二部（ソプラノ・バス）（テノール・アルト）の四通りの組み合わせで二部合唱を行わせていく。それぞれのパートにふさわしい声や歌い方を確認しながら他のパートの合唱を聴き合い，評価表に記入して意見や感想を発表させる。その際，他の人が発表している時の聴く態度に気をつけて，曲を細部に渡って注意深く聴き，的確な批評やアドバイスを行うことのできる力をつけさせたい。

まとめでは他のパートから受けた批評やアドバイスを生かして，前時で学習した歌詞の意味にも留意しながら日本語の美しさを感じ取り，聴いている人にも情景が伝わるように歌うように意識させる。最後に次時の予習として組歌「四季」の内容について指導し，生徒が，日本歌曲の歴史や作曲者の滝廉太郎についての理解を深めることを目指す。

本時では互いに批評やアドバイスをさせることによって，新たな発見や気づきを伝え合い学び合う場面を作る。このように相互評価の場面を設定することによって，他のパートの声にも真剣に耳を傾ける姿勢を身につけるとともに，お互いにしっかり聴き合って歌うことによって，正確

な音程を保ち、響きのある美しいハーモニーが完成していくことに気づかせたい。

生徒の主な学習活動。

〈導入〉 響きのある発声，明瞭な発音，明るい表情を心がけて歌う。

〈展開1〉 主旋律，副旋律の音程を確認しながら演奏上の記号に留意して歌う。

〈展開2〉 各パートの二声の響きを聴き合って，互いに評価し合う。

〈まとめ〉 批評やアドバイスに留意して全員で表現を工夫しながら二部合唱する。

作曲家「滝廉太郎」と組歌「四季」について理解する。

③本時の展開

○主なる指示・発問 ■評価

区分	学習活動と内容 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	準備物・資料等
導入 5分	<p>1. 本時の学習準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腹式呼吸をする。</li> <li>・発声練習をする。</li> <li>・注意点を確認する。</li> <li>・校歌斉唱をする。</li> </ul>	<p>○本時に取り組む準備をさせる。</p> <p>○歌う姿勢を指示する。</p> <p>○頭声発声を意識させ，発声練習をさせる。</p> <p>○歌う時の注意点をフラッシュカードで確認させる。</p> <p>○校歌斉唱をさせる。</p>	
展開1 10分	<p>2. 各パートの目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">各パートの目指す声はどんな声ですか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソプラノ…美しく透き通った声</li> <li>・アルト…やわらかく重厚な声</li> <li>・テノール…明るく張りのある声</li> <li>・バス…幅広く響く深みのある声</li> </ul> <p>3. 「花」を斉唱する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">注意点を意識して「花」を斉唱しましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主旋律，副旋律を確認する。</li> <li>・曲の頂点を意識して歌う。</li> <li>・音程やリズムに気をつける。</li> <li>・主旋律，副旋律を斉唱する。</li> </ul>	<p>○各パートの目標を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの目標とする声を確認させる。</li> </ul> <p>○主旋律，副旋律の確認をさせる。</p> <p>○曲の頂点を意識させる。</p> <p>○斉唱する際の注意をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音程・リズム。</li> <li>・鼻濁音。</li> <li>・ブレスの位置。</li> <li>・明瞭な発音。</li> <li>・曲の頂点とテンポの変化。</li> </ul> <p>○歌詞の情景を想像して主旋律，副旋律を斉唱させる。</p>	
展開2 25分	<p>4. 2パートずつ組んで，順番に二部合唱をする。</p>		

	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">2パートずつ組んで、順番に二部合唱をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2パートずつ組み順番に二部合唱する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主旋律ソプラノ・副旋律アルト</li> <li>・ 主旋律テノール・副旋律アルト</li> <li>・ 主旋律テノール・副旋律バス</li> <li>・ 主旋律ソプラノ・副旋律バス</li> </ul> </li> <li>の順で前に出て歌う。</li> <li>・ 他の人の発表をしっかりと聴いて、評価のポイントを決めてプリントに記入する。</li> </ul> <p>5. 評価などを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2パートずつ組み順番に二部合唱をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表の態度と聴く態度に注意する。</li> <li>・ 発表後評価をすることを伝え、その際に、的確なアドバイスができるように指示をする。</li> </ul> </li> <li>○ 評価のポイントを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正しい音程を保っているか。</li> <li>・ 正しい発声で歌っているか。</li> <li>・ 口がしっかり開いているか。</li> <li>・ 共鳴腔が開いているか。</li> <li>・ 明瞭な発音で歌っているか。</li> <li>・ 鼻濁音に注意しているか。</li> <li>・ 楽譜に忠実に歌っているか。</li> <li>・ 演奏記号に留意しているか。</li> <li>・ 表現の工夫をしているか。</li> <li>・ 明るい表情で歌っているか。</li> <li>・ 詩の情景が伝わってくるか。</li> </ul> </li> <li>■ 2つの声部の旋律を正確に保って、二部合唱ができたか。</li> <li>■ 日本歌曲の優美な趣を感じ取り、表情豊かに表現できたか。</li> </ul>
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">評価表に記入したこと、気づいたこと感想を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他のパートの発表に対して感想や批評、アドバイスをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 評価などを発表させる。</li> <li>○ 「評価表に記入したこと、気づいたこと感想を発表しましょう。」</li> </ul>
<p>まとめ 10分</p>	<p>6. 全員で二部合唱をする。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">今日の学習をもとにして最後に全員で二部合唱をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明るい表情で伸びやかに歌う。</li> <li>・ 二声の響きを聴きながら歌う</li> </ul> <p>7. 「花」に関する曲の情報を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指摘されたことに留意して、二部合唱の響きを味わいながら伸び伸びと歌うように指示をする。</li> <li>■ 批評やアドバイスを自分の表現に生かすことができたか。</li> <li>○ 「花」に関する曲の情報を伝える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作曲者と組曲「四季」の他の3曲について紹介する。</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花」は組曲「四季」の一曲めであることを紹介する。</li> <li>・次時の内容を伝える。</li> </ul>	
--	--	---	--

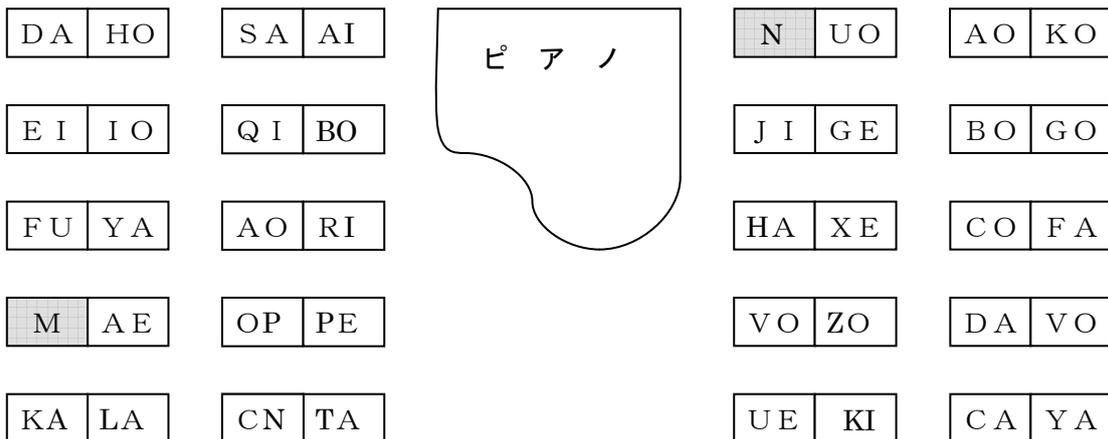
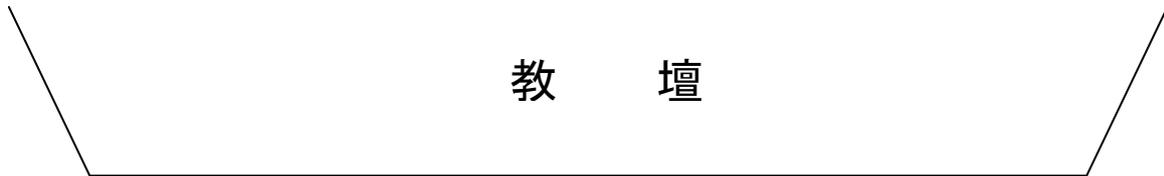
④評価(の観点と方法)

- ・2つの声部の旋律を正確に保って，二部合唱ができたか。
- ・日本歌曲の優美な趣を感じ取り，表情豊かに表現できたか。
- ・批評やアドバイスを自分の表現に生かすことができたか。

⑤板書計画

各パートの目標 (フラッシュカード)	
ソプラノ…	美しく張りのある透き通った声
アルト …	やわらかく厚みのある声
テノール…	明るくのびやかな声
バス …	幅広く力強い声

⑥座席表



 : 対象生徒